

未来へ語り継ぐ戦争体験 ～柳田邦男と中学生の対話～

総合政策課総務係 ☎(63)2138

テレビや新聞で、連日、ロシアのウクライナ侵攻などのニュースが報道される中、あらゆる世代の人に戦争や日本の平和について、改めて考える契機となるよう、戦争体験を語り継ぐ会からの提案を受け、この事業は実施されました。

今年度、3年ぶりに、広島平和記念式典に派遣された市内の中学3年生のうち10人が、本市出身のノンフィクション作家である柳田邦男氏と4つのテーマについて、パネルディスカッションを行いました。会場には多くの人が訪れ、平和に対する学びを深めることができました。

●開催内容

とき 令和4年11月5日(土)
午後1時30分～4時

ところ 市民文化センター 小ホール

●内容

あいさつ 鹿沼市長 佐藤 信

戦争体験を語り継ぐ会

代表 稲葉 幸枝

第1部 柳田邦男の戦争体験の講演

第2部 柳田邦男と中学生の対話

●テーマ1

広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること

●テーマ2

ロシアのウクライナ侵攻に對して考えること

●テーマ3

今日ある日本の平和について考えること

●テーマ4

あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと



●参加中学生（パネリスト）

栗野中	南野中	南摩中	板荷中	加蘇中	北押原中	北犬飼中	北中	西中	東中
萩原	筑井	増山	江田	大貫	川村	菊地	渡辺	豊田	片倉
歩夢	涼羽	怜紗	さくら	葵生	誠十郎	菜央	歩	主税	朱里

あいさつ

●佐藤市長

「戦後77年が経過するが、ロシアのウクライナ侵攻など、戦争が他人事ではなく、明日は我が身という感覚になる。戦争は、始めるときは、簡単に始まってしまいが、終わりを誰が決めるのか、どのような状況になったら、戦争が終わるのか分からない」との言葉がありました。

●「戦争体験を語り継ぐ会」代表 稲葉幸枝氏

稲葉幸枝氏

「コロナ禍で集会を開くことができなくなり、戦争体験談を語り継ぐ活動を続けることができなくなった。テレビ放映ができれば、多くの人に聴いてもらえると考え、ケーブルテレビの協力を得て、映像化に取り組んだ。その後、市の協力で、その証言を収録したDVDを7本製作してきた。

ぜひ皆さんに視聴していただき、平和というものを考えるきっかけにしてほしい」



▲「戦争体験を語り継ぐ会」代表 稲葉 幸枝氏

市公式 YouTube で公開中

今回の対話事業や、令和2、3年度に製作した戦争体験者の証言を収録した映像が、市公式YouTubeに掲載されていますので、ぜひご覧ください。



中学生との対話では、4つのテーマでパネルディスカッションを行いました。中学生から出された意見や感想に対し、柳田氏からは、「遺族としては、戦争で大切な人を失くしたことよりも、忘れられることの方がつらい。広島に行ったこと、感じたことを折りに触れて思い出してほしい」といった想いが述べられました。

また、対話の最後には、「ヤクバーとライオン」という柳田氏が翻訳した絵本を自ら朗読しました。この絵本は、殺さない勇気や人間の信頼関係を題材にしたもので、来場者の多くから「感動した」との感想が寄せられました。



中学生から出された主な意見

- ・「核兵器は絶対に駄目という意識を持つこと」
- ・「自分とほぼ同じ年齢であった人たちが、原爆というもので自分の人生を一瞬にして奪われてしまったと考えると、腹が立つし、やるせない気持ちになる」
- ・「SNSは決して悪い影響だけではないと思う。SNSを上手に活用し、戦争は絶対に駄目と発信し続けることで、みんなNOという意識を強めていけると良いと思う」
- ・「普段から自分を優先に考えるのではなく、相手を受け入れて尊重することが大切」

次の時代に 何かを伝えていくことはとても大事



▲柳田 邦男氏

戦争体験の講演は、柳田氏が鹿沼で経験した空襲の話をもとに描いた絵をもとに進められました。その言葉一つ一つには重みがあり、戦時中の恐ろしい光景が、想像できるほどの現実感に満ちたものでした。また、戦時中の辛く苦しい体験や、柳田氏がNHK記者時代に広島勤務で見たこと、感じたことが、現在までの進路選択をはじめ、さまざまな物事の見方や選択にかかわっていると話しました。

来場者からは、「こんなにも恐ろしいことが実際にあったという記憶や体験談を風化させることなく、後世に伝えていくべき」、「戦争が二度と起こらないようにしなければいけないと思った」といった多くの感想が寄せられました。



▲1945年7月12日鹿沼空襲のイラスト